

環境への負荷の可視化

・① (EF)]

地球の「環境容量」を表現する指標。人間活動が環境に与える負荷を、資源の再生産および廃棄物の浄化に必要な面積（生活を維持するのに必要な一人当たりの陸地および水域の面積）として示した数値。

2020 年には地球が 1 年間に生産できる範囲を約 60% 超過（＝現在の生活を維持するには地球 1.6 個分の自然資源が必要）。

（例）化石燃料の消費により排出されるCO2を吸収するために必要な森林面積

道路、建築物等に使われる土地面積

食糧の生産に必要な土地面積

紙、木材等の生産に必要な土地面積

の合計値。

表. 各国の1人あたりエコロジカルフットプリント(2003 年)

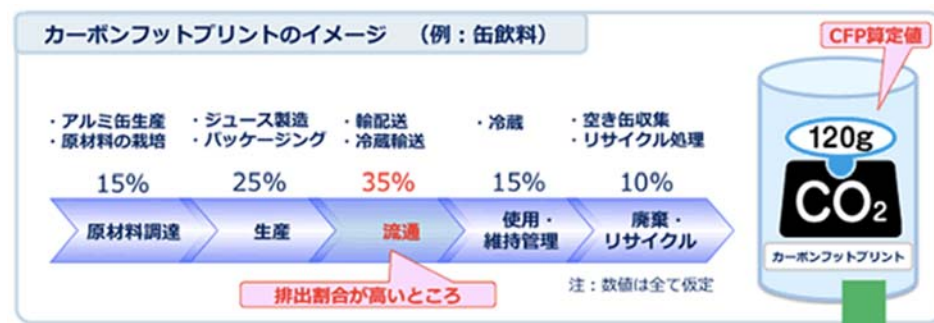
国	世界	米国	カナダ	中国	インド	ロシア	日本	ブラジル
ha	2.2	9.6	7.6	1.6	0.8	4.4	4.4	2.1

（生きている地球レポート 2006 による）

←
どんな傾向を読み取れるか。

・② (CFP)]

食品や日用品等について、原料調達から製造・流通・販売・使用・廃棄の全過程を通じて排出される温室効果ガスの量をCO2重量に換算し、可視化したもの。消費者は、価格とそこに付された CFP の数値を考慮して、商品を選択することができる。



・③]

CO2の排出量と吸収量が一致する状態。大気中の実際のCO2の増減に影響を与えないと考えられる。CO2 の全量が④]された状態。

（例）植物の光合成によるCO2の吸収と、その植物に由来する燃料

（⑤]）の燃焼によるCO2の排出

・④]

植林や自然エネルギーの利用により、経済活動や日常生活におけるCO2の排出を相殺しようとするもの。

削減が困難な部分の排出量については、他の場所で実現した温室効果ガスの排出削減・吸収量等（クレジット）を購入すること、または他の場所で排出削減・吸収を実現するプロジェクトや活動を実施することにより埋め合わせを行う。

クレジット付きの製品の販売や寄付などが行われている。

新しい環境保全

- ・ **① グリーンツーリズム** : 緑豊かな農山村地域の自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。ゆっくりと農林業体験を楽しむ余暇の過ごし方。
- ・ **② エコツーリズム** : 地域ぐるみで自然環境や歴史文化など、地域固有の魅力を観光客に伝えることにより、その価値や大切さが理解され、保全につながっていくことを目指す観光の在り方。持続可能性を考慮し、自然環境を損なわないようにする。
- ・ **③ ナショナルトラスト運動** : 開発から守りたい土地を市民有志が買い取ったり、自治体に買い取りを求めることで保全を試みる運動。イギリスで 19 世紀に始まる。日本では見沼田んぼ周辺斜面林(さいたま市)、トトロの森(所沢市)、知床半島など。
- ・ **④** : 有限である資源を効率的に利用するとともに再生産を行い、持続可能な形で循環させながら利用していく社会。
- ・ **⑤** : 廃棄物の発生抑制(Reduce)、再使用(Reuse)、再利用(Recycle)、適正処分。
- ・ **⑥ 環境税** : 「炭素税」「CO2 税」として、主にヨーロッパで導入。化石燃料への課税など。

cf.ブルーツーリズム

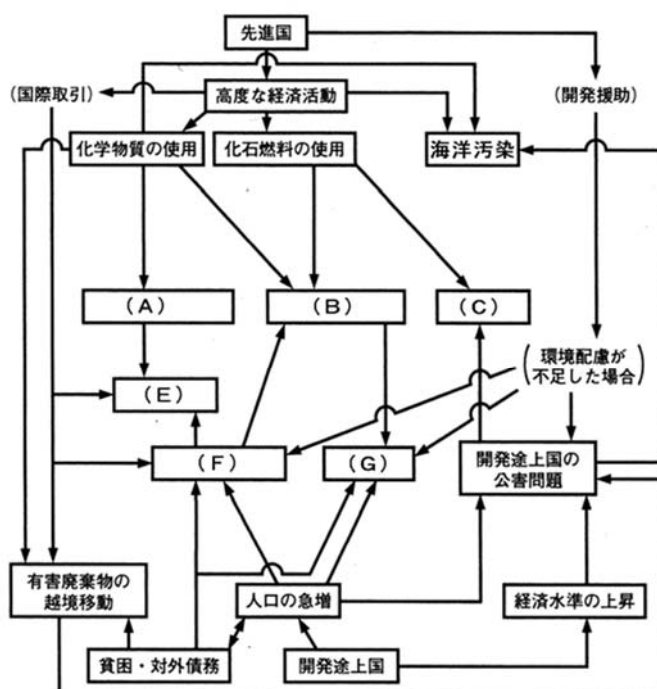
←
Circular Economy

←
どれが最も重要か？

←
フランスでは、炭素税の引き上げが「黄色いベスト」デモの発生要因のひとつとなった。

相互に関連する環境問題

(2015 年 明治大学)



(選択肢)

A~C
 オゾン層破壊
 酸性雨
 地球温暖化

E~G
 砂漠化
 熱帯林破壊
 野生生物減少

出所：地球環境研究会『地球環境キーワード事典 四訂』より。一部改変。